

とも♡あい 特別号

地域連携部 高等部編 令和3年7月

本校高等部で行った「交流及び共同学習」についての研修内容や「交流及び共同学習」についての目的や意義、実践報告を紹介いたします。

<本校の交流及び共同学習の目的>

同世代の児童生徒を中心に、様々な人との関わり合いや学びあいを通して、

- ① 互いを尊重し合う豊かな人間性を育むと共に、地域で「ともに学び、ともに育つ」関係性を作る。
- ② それぞれが個性や特性を活かして、社会の中で自分らしく生きる力を育む。

<高等部がめざす、交流及び共同学習>

障がいがある子どもと障がいがない子どもが学校を通して交流及び共同学習をおこなうことで、互いのちがいや似ているところを見つけていくことができ、そしてそれらの経験は、共生社会に生きる一人としての基礎を育む重要なものになっていくと考えています。

本校・交流校共に生徒が主体となり、自ら考え、作り上げていく交流及び共同学習をめざしています。

今後も、地域等の学校と連携しながら、交流及び共同学習を続けていきたいと思えます。

交流及び共同学習の意義

文部科学省HPより

障害のある人と障害のない人が互いに理解し合うこと

障害のある子どもたちと障害のない子どもたち、あるいは、地域社会の人たちが、ふれ合い、共に活動する機会を設けること

障害の有無にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し合える共生社会の実現



障害のある子どもと障害のない子どもと一緒に参加する活動

文部科学省 HP より

相互のふれ合いを通じて豊かな人間性をはぐくむことを目的とする交流の側面



教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面



<今後の課題>

★生徒の主体的な活動へ

例) プロセスの一部を生徒が担うような活動

(例: 生徒会、特別活動や学年の活動、クラブ活動単位等)

★相互の校内の体制の構築

交流内容を固定して、持続可能な交流及び共同学習のカタチを模索していく、等

★教員のねらいの共通理解

相互の学校間で、交流の意義・目的の理解を深め、生徒の実態に合った交流の在り方を考えていく。